

10月13日(水)に開催される

『山宮るり子 ハープ・リサイタル』

ご出演の山宮るり子さんに伺いました。

1. ハープを始めたきっかけを教えてください。

地元新潟にハーピストが誰もいないこともあって習ってみたいかと母に言われ、東京に母の高校の同級生でハーブを弾いている方がいらしたので、月に一度上京して習うことになりました。

2. ハープという楽器の魅力を教えてください。

他の楽器のように持続音が出せないで、音の重なり合いによって曲をつくり上げます。直接指を使って弦をはじいて音を出す繊細さが魅力だと思います。

3. ハープは優しく繊細で温かな音色に感じますが、なにか演奏するうえで客席からは見えにくい大変さなどはありますか？

意外と知られていないのが足元にある7本のペダルの役割です。7本というのはドレミファソラシのためであり、さらにそれが3段階になっていて、フラット、ナチュラル、シャープの半音を操作することができます。

曲によっては手より足の方が忙しく難しいこともあり、手元はゆったりとした旋律を弾いていても、足はバタバタと動いている、ということもあります。



足元の7本のペダル



4. グランドハープは弦の本数は47本あり、同じ弦楽器に分類されるヴァイオリンなどと比較すると非常に弦の数が多く感じます。演奏前の調弦は大変ですか？

一本ずつチューニングハンマーを使って行うのですが、私はだいたい開演30分前にチューニングをします。特に湿度が高い季節はなかなか安定しなくて大変です。

5. ハープの癒される音色を一度聴くと、自分もハープを演奏してみたい!と思うかたがいらっしゃると思います。これからハープを初めてみたいという方や演奏の上達を目指しているかたへメッセージをお願いします。

自分の理想とする音色を持つことが大切だと思います。自分の出す音をよく聴いて、何度も繰り返して自分の理想に近づいてください。

6. 2007年にドイツへ渡りハープを学ばれたとのことですが、海外での挑戦はどのような心境でしたか。

高校を卒業していきなり留学するのは勇気のあることでしたが、憧れの先生のもとで若いうちから学べたことは今思えばとても恵まれた環境でした。

当時はそれまで日本で受けてきたレッスンとの違いや、次々に与えられる課題の多さに慣れることに必死でした。語学の面でも苦勞し、ドイツ人と同じ授業を受け、試験にも合格しなくて

はいけなく、無事に卒業できるか不安になることもありました。乗り切ったことが自信に繋がったと思います。

7. これまで国内外でたくさんの楽団の演奏会に参加されるなど幅広く活躍されていますが、今までに印象に残った演奏会や出会いはありましたか？

留学中訪れた、ドイツやフランスの旅行では絶対行かないような田舎でのコンサートは印象的です。小さな町なのに多くのお客さんが集まってくださり、とても暖かい空間でした。

8. 10月13日の公演はどのようなコンサートにしたいとお考えですか？

ハープという楽器の持つ可能性をお客様に感じていただきたいです。

ハープ一台でこんな音も出るんだ、と曲によって様々な表情をお見せできたらと思います。このコンサートによってハープに興味を持つ方が一人でもいらっしゃればとても嬉しいです。

9. 今回のプログラムには何か思い入れはありますか。

ハープのために書かれたオリジナル曲から他の楽器のために書かれた名曲まで、幅広く選曲しました。どこかで聞いたことのあるメロディーも多いと思いますので、楽しんでいただけたら嬉しいです。

10. お客様にメッセージをお願いします。

不安定な世の中ですが、日常を少しでも忘れ、安らげるひと時となればと思います。会場でお待ちしております。



珍しいハープのソロリサイタル。豊かでダイナミックな響きをお楽しみください。